

第33期 (2013年6月期)

# 第2四半期連結業績説明資料

2013年 2月

株式会社

**ドン.キホーテ**

Don Quijote Co.,Ltd.

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki.com>

e-mail : [takahashi@donki.co.jp](mailto:takahashi@donki.co.jp)





## 2013年6月期 2Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債、純資産の状況
- ✓セグメント情報
- ✓キャッシュフロー、設備投資の状況
- ✓株式の状況
- ✓決算レビュー

## ドン・キホーテグループトピックス

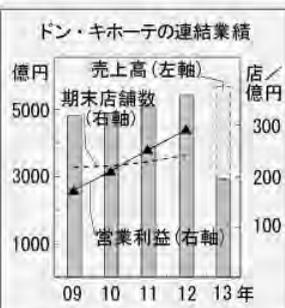
- ✓月次販売の状況
- ✓出店状況&ハイライト情報
- ✓店舗業態の状況
- ✓PB商品の状況

## 2013年6月期 業績予想

本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

本資料中、ドン・キホーテは「DQ」、アクリーティブは「ACR」と表示している箇所があります。

## ドン・キホーテ、経常利益16%増



**好調なりテール事業**  
ドン・キホーテの店舗力は堅実だ。前期の反動や価格競争、天候不順などが影差すなかで、多様化し、高度化する顧客ニーズに迅速に対応しながら、セールスマックスの改善を施して収益力を拡大した。

グループ会社の長崎屋、ドイツ、ハワイは一部の販売状況において苦戦する場面が見受けられたが、攻守取り混ぜた営業力を駆使し

「セールスマックスで収益力拡大」  
7~12月期  
ドン・キホーテが5日に発表した2012年7月~12月期連結決算は、売上高が4%増の2896億円、営業利益が前年同期比8%増の187億円、経常利益が16%増の191億円の増収増益決算となった。前期の反動や低価格競争が激化する消費環境下で、同社の安定感と群を抜く。顧客最優先主義を貫く同社の企業姿勢と業績に対してますます評価が高まりそうだ。

て、いずれも増益決算となった。

セグメント別では、リテール事業の売上高は4%増の2790億円、セグメント利益は14%増の148億円となった。いかなる環境下においても収益力を伴う中核ビジネスを展開できる同社の強みは、当期も遺憾なく発揮された。

テナント賃貸事業の売上高は82億円、セグメント利益は28億円となった。

グループ全体の店舗数は、前期比14店舗増の249店舗だった。なお、前期に特別利益を計上した反動で、純利益は1%減の118億円となった。

A○B新聞  
号外  
2月5日  
火曜日

1Q89  
established

外国人持株比率 60%

同社が展開するビジネスモデルの獨創性や競争力の源泉となっており、特に外国人投資家の支持率が高く、12年12月末時点で60%超の保有率となった。今後の動向にも注目が集まりそうだが、幅広い投資家層と積極的な対話を続ける同社IRチームの活動も評価したい。

上方修正は4期連続

第2四半期累計期間までの進捗状況を踏まえて、通期の業績予想を4期連続して上方修正する。売上高は前期比4%増の5620億円(従来予想は5600億円)、営業利益は5%増の310億円(同305億円)、経常利益は5%増の310億円(同303億円)、純利益は1%増の201億円(同200億円)に修正し、24期連続の増収増益と史上最高益の更新を当期も狙う。

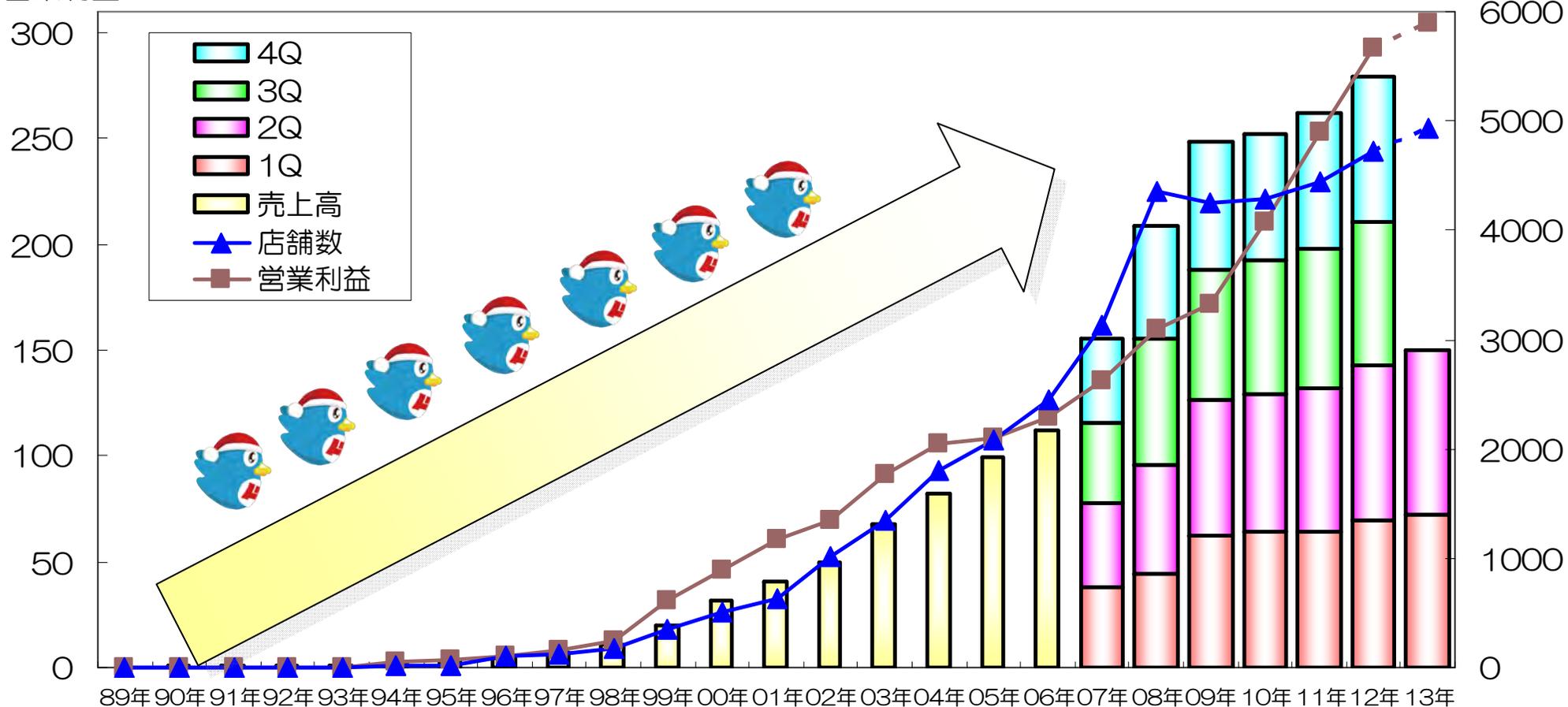
時代はようやくドン・キホーテの存在に気が始めたようだ。同社が主役に抜擢される日は遠くない時期に訪れそうだ。

【MT記】

# 年間業績推移

店舗数  
営業利益

(営業利益・売上高単位：億円)



(注) 当社グループは、DQ1号店を創業開店（1989年3月）して迎えた最初の決算期（1989年6月期）から、直近期（2012年6月期）まで、23期連続増収営業増益を継続しております。

## 1. 2Q累計連結業績概況

### 新規出店の拡大とセールスマックスで増収増益を達成！

- ▶ New MEGAを中心に、店舗の大型化や地方展開を促進するが、新店に係る初期費用の負荷と光熱費の負担増を見据えて、「最適なセールスマックスの追求」による「売上総利益の増大」に販売方針を転換。
- ▶ リテール事業は「在庫削減」と「収益力増加」を同時に進める離れ業にチャレンジ。  
主力のドン・キホーテ既存店は、「在庫削減策」を重点施策として押し進める一方で、販売面においては前期における地デジ販売に係る反動減の影響が残ったことから、売上伸長率は1.0%減と弱含む状況も、セールスマックスの改善により、売上総利益は0.4%増と利益拡大に寄与。
- ▶ 日用雑貨品や食料品などのコモディティ系商品の対応は、お客さまの信頼と支持を強固なものにしており、一方で、時計・ファッション用品や非日常的商品などでお客さまの「買い物脳を刺激」し、家電製品の伸び悩みを補う堅実な販売動向で推移。
- ▶ これらのことから、2Q累計連結業績は、売上高2,896億円（前期比4.6%増）、営業利益187億円（同8.5%増）、経常利益191億円（同16.0%増）と増収増益を達成！
- ▶ 純利益は、特別利益を計上した前1Qの反動により、当1Qは16億円減でスタートするが、当2Qは14億円挽回し、2Q累計で118億円（同1.3%減）まで回復。  
なお、株主資本利益率（ROE）は、年率換算で15.9%の水準。

## 2. 業績見通し

### 通期業績予想を上方修正！

- ▶ 2Q累計連結業績の進捗状況を踏まえて通期の業績見通しを修正。  
売上高は前期比4.0%増の5,620億円（前期実績5,403億円）。営業利益は5.7%増の310億円（同293億円）、経常利益は5.9%増の310億円（同293億円）、当期純利益は1.3%増の201億円（同198億円）と、保守的な予想ながらも24期連続増収増益を達成し、今期もさりげなく最高益更新を狙う。

# 2Q累計業績サマリー

(単位：百万円)

連結実績	当2Q累計実績				公表予想 ※1		前2Q実績	
	金額	百分比	予想比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	289,644	100.0%	100.9%	104.6%	287,000	100.0%	276,939	100.0%
売上総利益	76,186	26.3%	102.4%	106.1%	74,400	25.9%	71,810	25.9%
販管費	57,513	19.9%	100.9%	105.3%	57,000	19.9%	54,592	19.7%
営業利益	18,673	6.4%	107.3%	108.5%	17,400	6.0%	17,218	6.2%
経常利益	19,075	6.6%	112.2%	116.0%	17,000	5.9%	16,451	5.9%
当期純利益	11,777	4.1%	107.1%	98.7%	11,000	3.8%	11,936	4.3%
1株利益	152.64円		107.0%	98.5%	142.61円		154.90円	

個別実績	当2Q累計実績				(参考予想) ※2		前2Q実績	
	金額	百分比	予想比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	201,796	100.0%	101.9%	106.2%	198,000	100.0%	189,951	100.0%
売上総利益	52,508	26.0%	104.0%	109.4%	50,500	25.5%	48,007	25.3%
販管費	38,806	19.2%	103.5%	109.8%	37,500	18.9%	35,332	18.6%
営業利益	13,702	6.8%	105.4%	108.1%	13,000	6.6%	12,675	6.7%
経常利益	13,930	6.9%	108.8%	117.7%	12,800	6.5%	11,831	6.2%

※1. 業績予想は、2012年8月17日に開示したものであります。

※2. 当社は、個別業績予想を公式開示しておりませんが、連結業績予想の前提となる予想を参考予想として記載しております。

# 2Q累計連結業績概況コメント

## ▶ 連結売上高：2,896億円（前期比4.6%増）

前期特需の反動、価格競争の激化、曜日周りの不運、天候不順の常態化、消費マインドの低迷などマイナス影響が続いた商戦で、交差主義比率を意識しながらもメリハリの効いた販売促進策を講じる。

新規のファミリー向け店舗も順調な販売動向で進捗し、従来からのヘビーユーザーに加えて、リピート率が高い女性客や中高年齢層などに向けた商品提案を積極的に推し進める。

## ▶ 当2Q末店舗数：249店（前期末242店）

新規出店9店（DQ4店、New MEGA5店：うちソリューション出店2店）、閉鎖2店。

## ▶ 連結売上総利益：762億円（前期比6.1%増）、利益率：26.3%（同0.4pt改善）

時流や店舗競合状況に沿ったセールスマックスを推進。日用雑貨品などのコモディティ商品は価格訴求を強化する一方で、プライベートブランド商品などを中心とした採算性の良い商品の販売ミックスを強化した結果、同利益率は0.4pt改善。

## ▶ 連結販管費：575億円（同5.3%増）、販管費率：19.9%（同0.2pt上昇）

地方展開及び大型化を進めた新規出店に係る人件費や初期費用を中心とした諸費用及び光熱費などが増加するが、「コストコントロール」を安定させて、売上総利益伸長率を下回る増加率にとどめる。

## ▶ 営業外収支尻：4.0億円のプラス

受取利息2.9億円、負ののれん償却3.7億円/支払利息7.9億円など。

## ▶ 特別損益尻：1.7億円のマイナス

/固定資産除却損0.8億円、店舗閉鎖損失0.4億円など。

## ▶ これらのことから、営業利益187億円（同8.5%増）、経常利益191億円（同16.0%増）と大幅増益を達成！ 当期純利益は118億円（1.3%減）。

# 2Q累計連結業績概況

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	289,644	100.0%	276,939	100.0%	104.6%
売上総利益	76,186	26.3%	71,810	25.9%	106.1%
販管費	57,513	19.9%	54,592	19.7%	105.3%
給与手当	19,660	6.8%	18,375	6.6%	107.0%
地代家賃	8,591	3.0%	8,987	3.2%	95.6%
支払手数料	6,688	2.3%	6,202	2.2%	107.8%
減価償却費	4,793	1.7%	4,477	1.6%	107.1%
その他	17,781	6.1%	16,551	6.0%	107.4%
営業利益	18,673	6.4%	17,218	6.2%	108.5%
経常利益	19,075	6.6%	16,451	5.9%	116.0%
当期純利益	11,777	4.1%	11,936	4.3%	98.7%
1株当たり純利益	152.64円		154.90円		98.5%

# 2Q累計事業別業績概況コメント

## ▶リテール事業2,790億円（前期比4.7%増）

### \*「家電製品」290億円（同1.6%減）

エコポイント・アナログ停波以降の薄型テレビやAV機器の縮小傾向が続く一方で、スマートフォンアクセサリや季節家電がお客さま支持率を高める。一品単価から買上点数へとカ点をシフトした商品構成で収益力が改善。

### \*「日用雑貨品」641億円（同5.4%増）

化粧品・洗剤・保湿用品などの日用消耗品を重点販売し、台所用品など買い替え頻度の低い商品の需要減をカバー。ハロウィン・クリスマス関連用品の早期展開によりお客さまの需要を喚起。

### \*「食品」804億円（同4.7%増）

価格競争力を保ち顧客基盤をさらに強固なものにしながら、定番系商品は安定的に堅調なトレンドを描く。ブームに下支えされたヨーグルト・トクホ関連飲料などの機能性食品や袋麺が貢献。

### \*「時計・ファッション用品」678億円（同10.3%増）

ギフト需要が追い風となりアクセサリ類への人気が高まる。手袋やネックウォーマーなどの冬の服飾小物、機能性下着などの実用衣料が牽引。

### \*「スポーツ・レジャー用品」178億円（同6.4%増）

夏のアウトドア関連用品の伸長に加えて、フィットネス用品などインドア関連商品も健康志向に後押しを受け好調に推移。

### \*「DIY用品」87億円（同4.4%減）

業態転換に伴う閉店1店の影響と防災用品や節電に伴う需要に一服感が見られ苦戦。既存店舗については改装効果とテコ入れにより売上高・粗利高ともに改善。

### \*「海外（ハワイ）」63億円（同1.6%増）

生鮮・惣菜・グロッサリーのニーズを捉えた商品構成と提案力が人気を高め、顧客基盤の固定化を促進。既存店はUSドルベースで1.8%増。（ご参考：当2Q \$1=79.1円、前2Q=79.3円）

## ▶テナント賃貸事業82億円（同3.6%増）

一部のテナント事業者の縮小や撤退が底打ちし、商業施設事業も徐々に寄与。

# 2Q累計事業別業績概況

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	278,988	96.3%	266,559	96.3%	104.7%
家電製品	29,043	10.0%	29,524	10.7%	98.4%
日用雑貨品	64,117	22.1%	60,844	22.0%	105.4%
食品	80,440	27.8%	76,793	27.7%	104.7%
時計・ファッション用品	67,825	23.4%	61,506	22.2%	110.3%
スポーツ・レジャー用品	17,790	6.1%	16,721	6.0%	106.4%
DIY用品	8,694	3.0%	9,090	3.3%	95.6%
海外	6,314	2.2%	6,216	2.2%	101.6%
その他商品	4,765	1.7%	5,867	2.1%	81.2%
テナント賃貸事業	8,154	2.8%	7,872	2.8%	103.6%
その他事業	2,502	0.9%	2,508	0.9%	99.8%
合計	289,644	100.0%	276,939	100.0%	104.6%

※「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

# 主な資産の状況

(単位：百万円)

	12年12月	12年6月	増減額
流動資産	154,118	138,816	15,302
現預金	36,004	34,237	1,767
商品	89,264	83,641	5,623
固定資産	240,357	223,835	16,521
建物等	66,939	59,899	7,040
土地	105,680	97,317	8,363
敷金保証金	32,718	32,286	432
資産合計	394,475	362,651	31,823

## 主な資産の状況

12月末は小売業の繁忙期のため、6月末に比して、現預金・商品などの資産は増加する傾向があります。

- ▶ **総資産：3,945億円** (前期末比318億円増)  
主な増加要因は、現預金18億円増、受取手形及び売掛金20億円増、棚卸資産56億円増及び出店に伴う有形固定資産158億円増など  
(※参考：前2Q比現預金132億円減、棚卸資産10億円減、有形固定資産205億円増)
- ▶ **現預金：360億円** (同18億円増)  
資金効率を高めながら、当期における資金需要予想額を、銀行借入れ及び社債発行によるデット調達を実行。
- ▶ **商品：893億円** (同56億円増)  
交差主義比率の改善を意識した営業施策により、滞留在庫の販売促進や処分に注力。過去1年間における新規出店19店を含めた売場面積7.6%増に対して、商品在庫は1.0%減と抑制。
- ▶ **固定資産：2,404億円** (同165億円増)  
当期中の新規出店9店及び次期以降の出店物件の獲得により、有形固定資産158億円増、投資その他の資産7億円増など。

# 主な負債・純資産の状況

(単位：百万円)

	12年12月	12年6月	増減額
流動負債	124,148	120,243	3,905
買掛金	62,131	44,793	17,338
短期負債 <sup>※1</sup>	36,555	49,045	▲12,490
固定負債	114,653	96,673	17,980
社債等 <sup>※2</sup>	63,080	47,820	15,260
長期借入金	36,649	36,476	173
負債合計	238,801	216,916	21,885
純資産合計	155,674	145,735	9,939
負債・純資産合計	394,475	362,651	31,823

## 主な負債・純資産の状況

12月末は小売業の繁忙期のため、6月末に比して買掛金などの負債は増加する傾向があります。

- ▶ 負債合計：2,388億円（同219億円増）  
主な増加要因は、買掛金173億円増、有利子負債29億円増（短期性負債125億円減、長期性負債154億円増）など。
- ▶ 有利子負債：1,363億円  
（同29億円増、依存率34.5%）  
（うちACR150億円）
- ▶ 純負債：1,003億円（同12億円増）
- ▶ D/Eレシオ：87.5%  
（前2Q比22.3pt.改善）
- ▶ 純資産：1,557億円  
（前期末比99億円増、自己資本比率38.8%）

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債、同転換社債

※2 社債等＝社債、転換社債

# 2Q累計セグメント情報 (事業別)

「リテール事業」のセグメント利益は14.4%増の148億円、  
「テナント賃貸事業」は28億円、「その他の事業」は11億円！

## 当2Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	278,988	8,154	2,502	289,644	—	289,644
内部取引等	2	1,338	1,859	3,199	▲3,199	—
計	278,990	9,492	4,361	292,843	▲3,199	289,644
セグメント利益	14,779	2,792	1,065	18,636	37	18,673

## 前2Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	266,559	7,872	2,508	276,939	—	276,939
内部取引等	2	1,688	1,054	2,744	▲2,744	—
計	266,561	9,560	3,562	276,683	▲2,744	276,939
セグメント利益	12,918	3,352	1,080	17,350	▲132	17,218

※報告セグメントについては、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

# 2Q累計セグメント情報 (法人別)

主力の「ドン・キホーテ」営業利益は8.1%増の137億円！  
リテール事業の「長崎屋」「ドイツ」「DQ USA」は全社とも営業増益達成！

## 当2Q会社別概要

(単位：百万円)

	ドン・キホーテ	ドイツ	長崎屋	DQ USA ※	その他	消去/全社	連結
売上高	201,796	10,124	69,553	6,434	12,503	▲10,766	289,644
営業利益	13,702	268	1,454	331	1,527	1,391	18,673
総資産	324,448	23,849	61,921	9,538	92,479	▲117,761	394,474
純資産	133,154	17,707	34,012	8,803	23,191	▲61,193	155,674

## 前2Q会社別概要

(単位：百万円)

	ドン・キホーテ	ドイツ	長崎屋	DQ USA	その他	消去/全社	連結
売上高	189,951	10,544	69,616	6,336	9,931	▲9,439	276,939
営業利益	12,675	231	1,131	289	1,546	1,346	17,218
総資産	320,119	22,790	65,310	9,000	88,254	▲125,334	380,139
純資産	121,482	17,702	32,374	8,249	21,407	▲64,036	137,178

※ 当期為替レート (PL：1USD=¥79.1 BS：1USD=¥77.6) 前期為替レート (PL：1USD=¥79.3 BS：1USD=¥76.7)  
Don Quijote Co., Ltd. 2Q results of FY2013.

# キャッシュフロー&設備投資の状況

(単位：百万円)

1.キャッシュフローの状況	当2Q	前2Q	増減額
期首残高	29,973	26,875	3,098
営業活動CF	28,325	18,365	9,960
投資活動CF	▲15,486	▲30,216	14,730
財務活動CF	653	13,451	▲12,798
期中増減等	13,392	4,939	8,453
期末残高	43,365	31,814	11,551

## 2.設備投資の状況

設備投資額	21,131	10,222	10,909
キャッシュフロー <sup>※</sup>	15,117	15,641	▲524
差引	▲6,014	5,419	▲11,433

※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

## キャッシュフロー

### <営業CF>

税金等調整前純利益189億円、減価償却費53億円及び仕入債務の増加174億円などが増加要因となる一方で、売上債権の増加22億円、たな卸資産の増加57億円及び税金支払額56億円などが減少要因となったことから、283億円の収入

### <投資CF>

出店に伴う有形固定資産の取得201億円などの一方で、定期預金の払い戻し58億円などにより、155億円の支出

### <財務CF>

銀行調達及び社債発行による純増額28億円の一方で、配当金支払額16億円などにより、7億円の収入

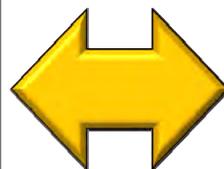
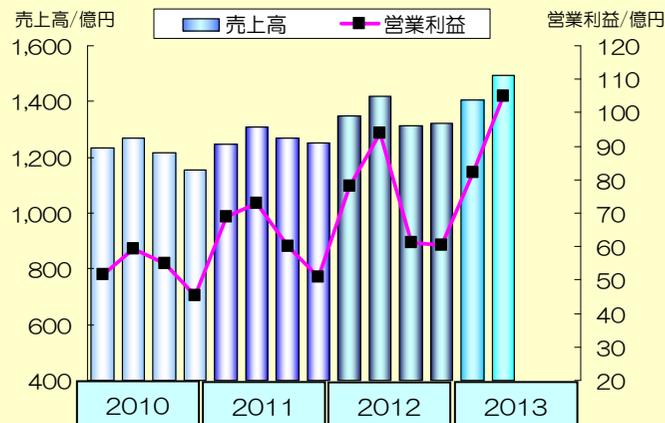
## 設備投資

新規出店や改装に係る投資を主体に、次期以降の出店予定物件や商業施設物件の獲得などにより211億円（DQ103億円、長崎屋10億円、日本商業施設88億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は195億円）の支出となり、キャッシュフローは▲60億円。

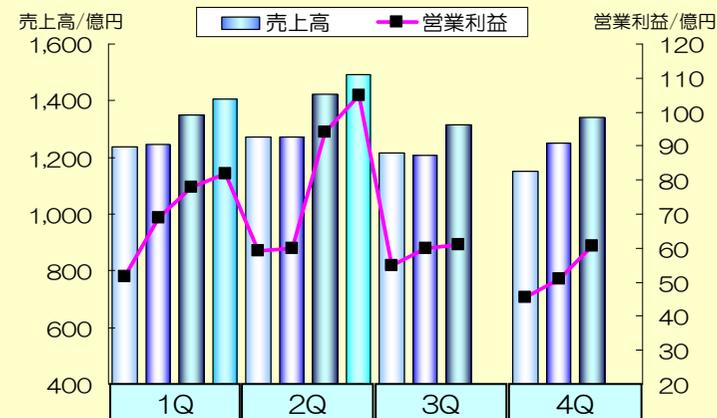
（※営業キャッシュフローは283億円獲得）

# 四半期業績推移

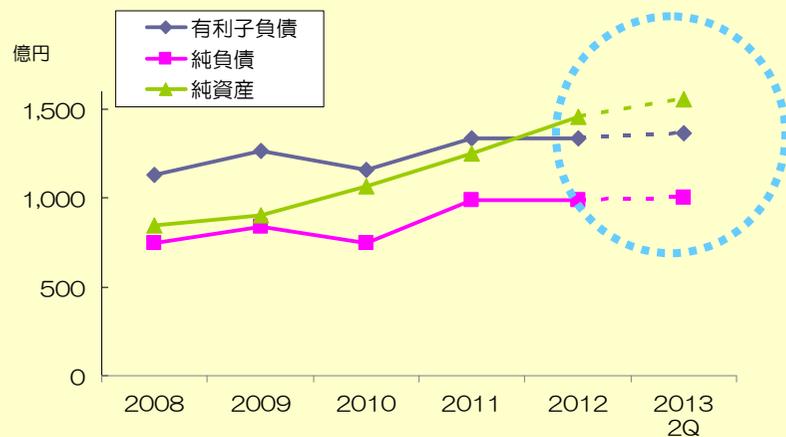
## 四半期業績推移の状況 (A)



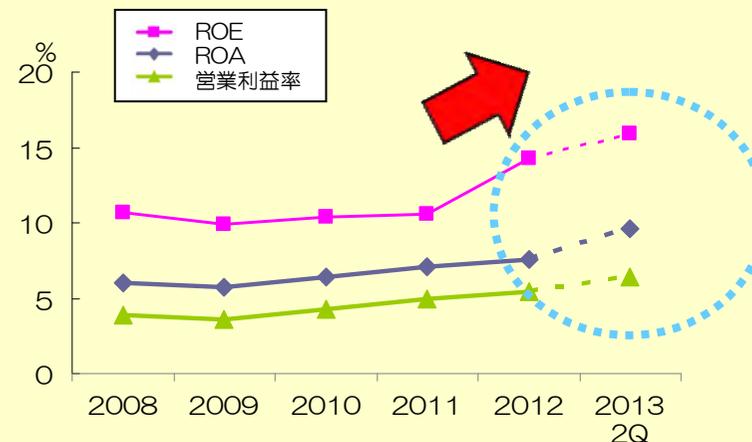
## 四半期業績推移の状況 (B)



## 純資産・純負債・有利子負債の状況



## 営業利益率・ROA・ROEの状況



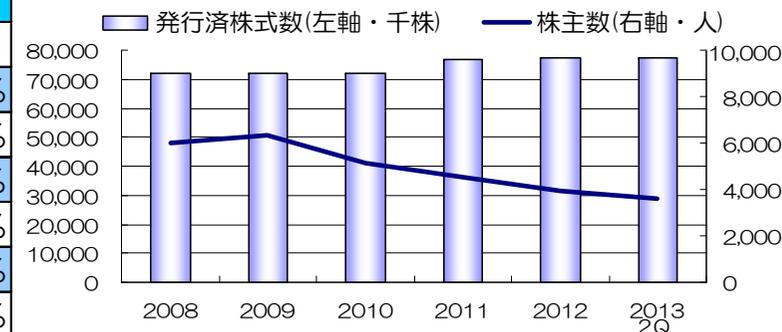
ROA = (営業利益 + 受取利息 - 支払利息) ÷ 総資産  
 ROE = 純利益 ÷ 純資産

# 株式の状況

## 所有者別構成比推移

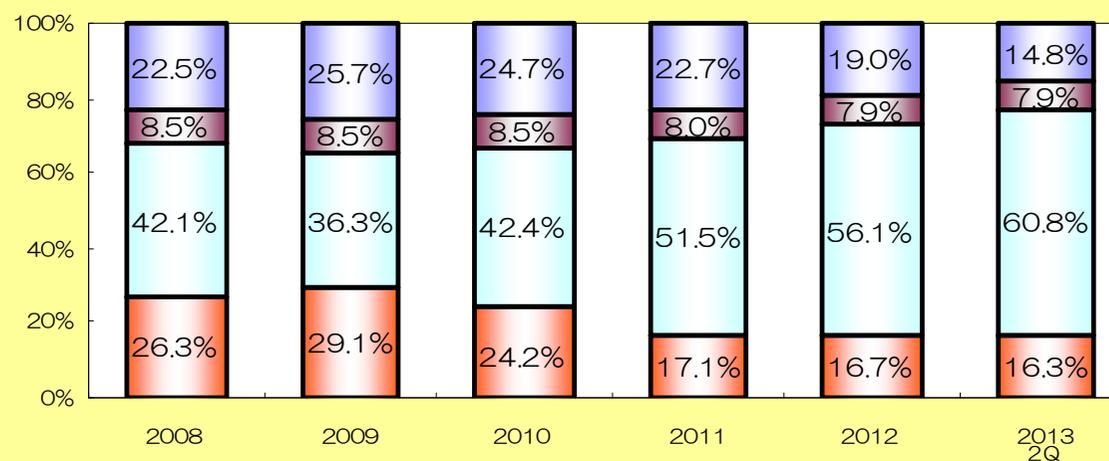
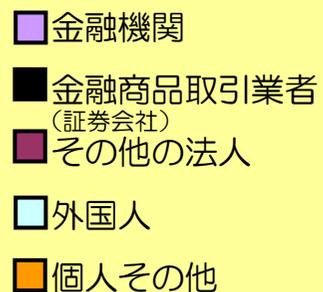
(単位：千株)

		前々期末		前期末		当2Q	
期末株主数		4,542人		3,964人		3,574人	
発行済株式数合計		77,031	100.0%	77,135	100.0%	77,210	100.0%
所有者別	金融機関	17,505	22.7%	14,606	19.0%	11,405	14.8%
	金融商品取引業者	556	0.7%	249	0.3%	233	0.3%
	その他の法人	6,122	8.0%	6,084	7.9%	6,082	7.9%
	外国人	39,673	51.5%	43,298	56.1%	46,924	60.8%
	個人その他	13,175	17.1%	12,898	16.7%	12,566	16.2%



(注) 1. 当2Q末株主数は、3,574人(前期末比390人減、前2Q末比548人減)となっております。  
2. 自己株式(1,244株)は、個人その他に含んでおります。

## 所有者別持株構成比推移



総株主数は3,574人。

外国人比率60.8%  
12年6月時点のランキングに  
当てはめると20位に相当

# 株価の状況&時価総額ランキング

## 株価の推移

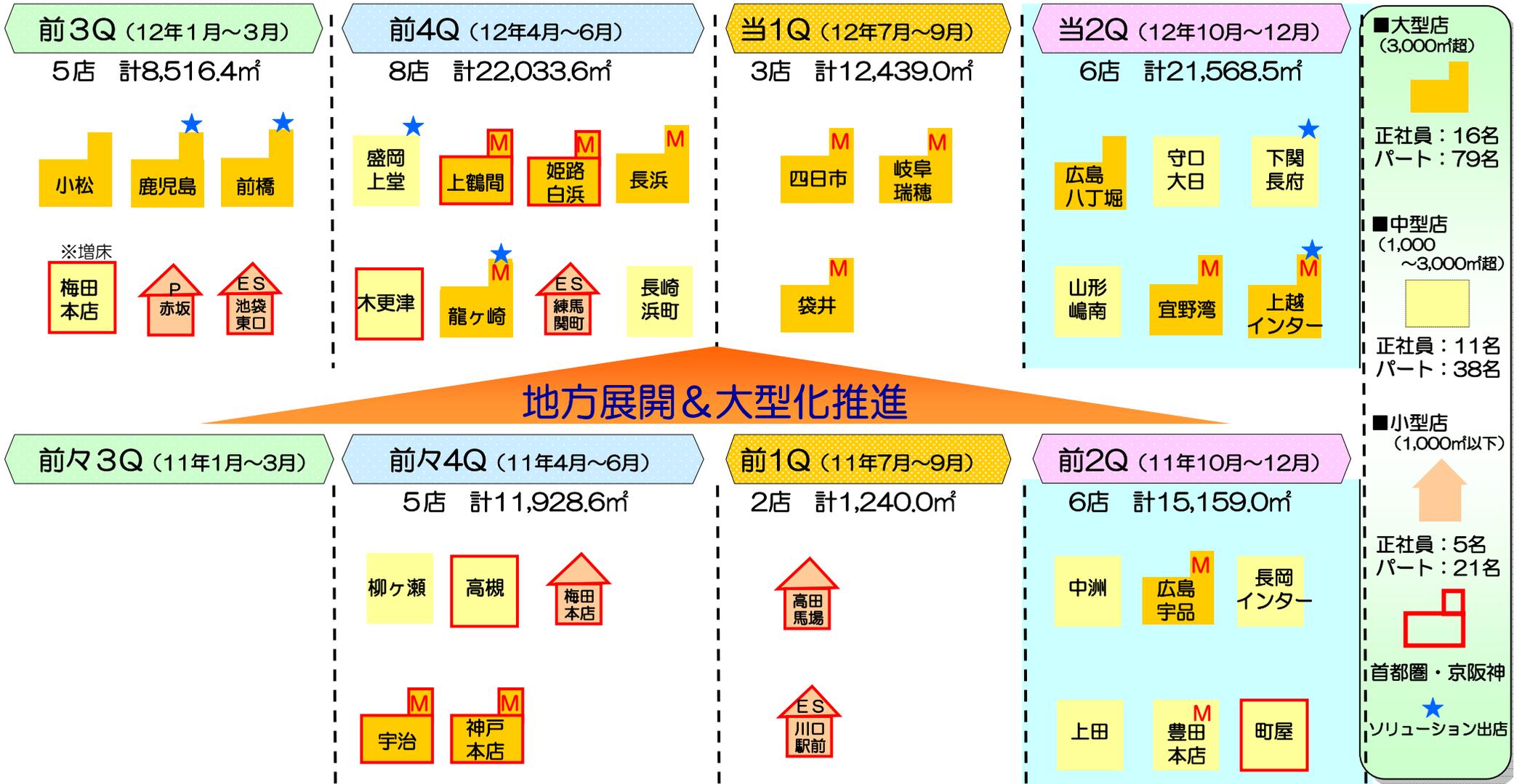


## 小売業時価総額ランキング

(単位：億円)

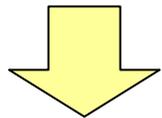
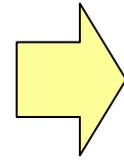
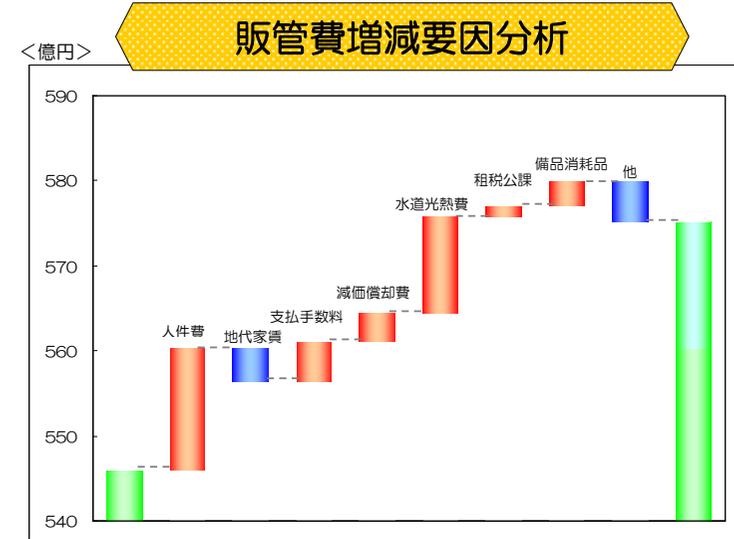
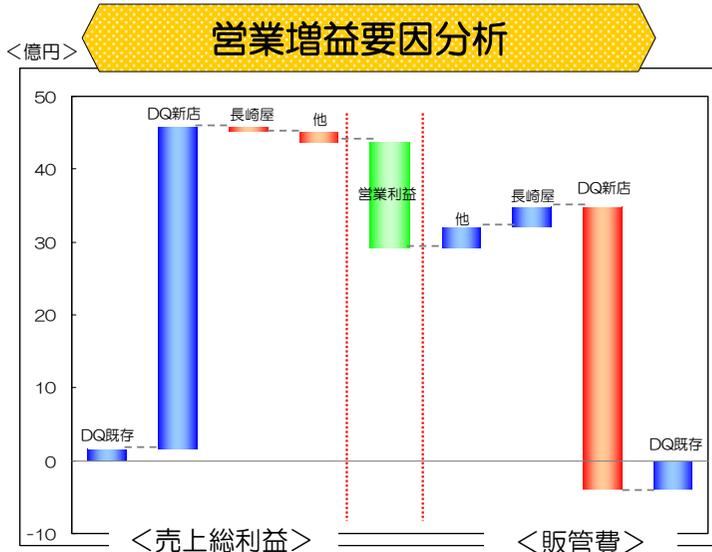
順位	名称	時価総額 ※
1	ファーストリテイリング	25,543
2	セブン&アイ・ホールディングス	24,661
3	イオン	8,309
4	ローソン	6,650
5	ニトリホールディングス	4,000
6	ファミリーマート	3,595
7	三越伊勢丹ホールディングス	3,565
8	ヤマダ電機	3,402
9	しまむら	3,315
<b>10</b>	<b>ドン・キホーテ</b>	<b>2,810</b>
11	J.フロント リテイリング	2,692
12	エービーシー・マート	2,620
13	丸井グループ	2,368
14	サンドラッグ	2,310
15	高島屋	2,226
16	スギホールディングス	1,989
17	コスモス薬品	1,958
18	ツルハホールディングス	1,834
19	ユニー	1,587
20	エイチ・ツー・オー リテイリング	1,551

# 2Q累計レビュー：店舗大型化推進

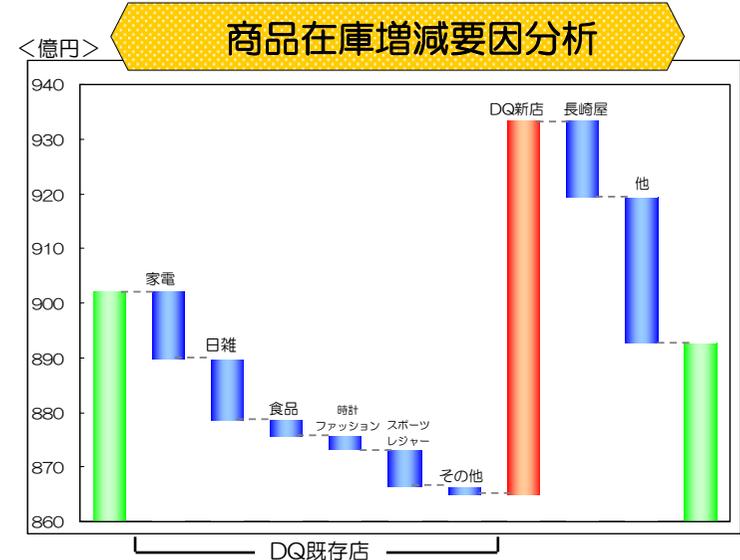
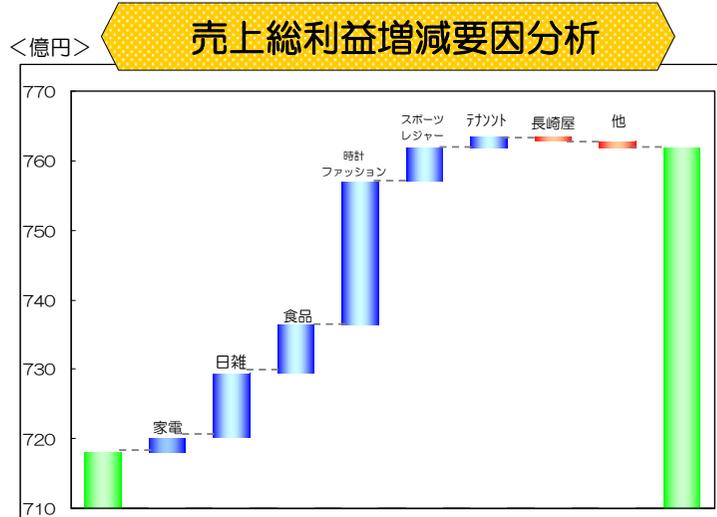


過去12ヵ月間の新規出店は、地方展開に合わせて大型化を進め、売場面積は2.3倍に拡大

# 2Q累計レビュー：営業利益&在庫分析



- \* 既存店成長は弱含む(粗利は増加)が新規店舗が貢献
- \* 販管費は新規店舗増に係る諸費用及び光熱費が増加
- \* 滞留在庫を中心に商品在庫の削減を徹底し効率改善



# 2Q連結業績概況

【2012年10月1日～12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q		前2Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	149,265	100.0%	142,076	100.0%	105.1%
売上総利益	39,176	26.2%	36,973	26.0%	106.0%
販管費	28,746	19.2%	27,536	19.4%	104.4%
給与手当	9,877	6.6%	9,203	6.5%	107.3%
地代家賃	4,303	2.9%	4,443	3.1%	96.8%
支払手数料	3,632	2.4%	3,117	2.2%	116.5%
減価償却費	2,461	1.6%	2,305	1.6%	106.8%
その他	8,473	5.7%	8,468	6.0%	100.1%
営業利益	10,430	7.0%	9,437	6.6%	110.5%
経常利益	10,710	7.2%	9,046	6.4%	118.4%
当期純利益	6,708	4.5%	5,261	3.7%	127.5%
1株当たり純利益	86.92円		68.26円		127.3%

# 2Q事業別業績概況

【2012年10月1日～12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q		前2Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	143,767	96.3%	136,934	96.4%	105.0%
家電製品	15,901	10.7%	15,339	10.8%	103.7%
日用雑貨品	33,256	22.3%	31,403	22.1%	105.9%
食品	41,430	27.8%	39,679	27.9%	104.4%
時計・ファッション用品	36,013	24.1%	32,902	23.2%	109.5%
スポーツ・レジャー用品	7,584	5.1%	7,310	5.1%	103.7%
DIY用品	4,112	2.7%	4,397	3.1%	93.5%
海外	3,201	2.1%	3,077	2.2%	104.0%
その他商品	2,270	1.5%	2,827	2.0%	80.3%
テナント賃貸事業	4,204	2.8%	3,896	2.7%	107.9%
その他事業	1,294	0.9%	1,246	0.9%	103.8%
合計	149,265	100.0%	142,076	100.0%	105.1%

※報告セグメントについては、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

## ▶ 連結売上高：1,493億円（前期比5.1%増）

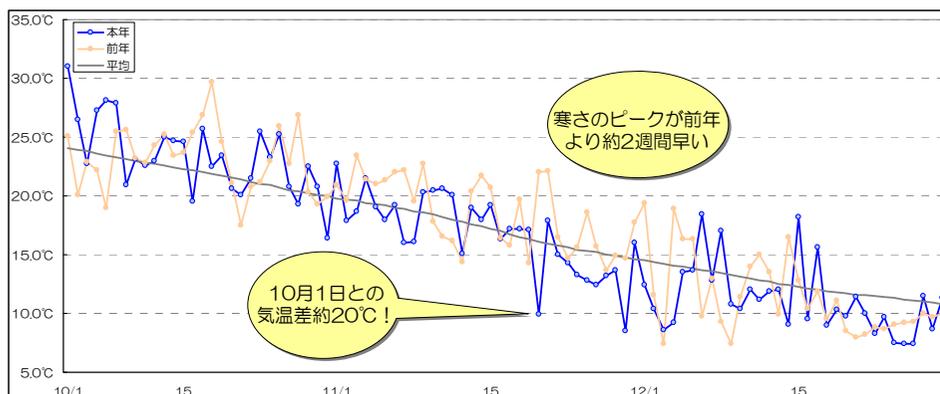
前年と比較して休日が少ないカレンダー周りが既存店におけるお客さま来店数、売上高にマイナス影響を与えたが、時季に応じた商品ニーズの先読みが奏効し影響を最小限に抑える。（ご参考：DQ既存店売上高0.3%減、粗利益高1.1%増）  
「食品」や「日用雑貨品」などコモディティ商品は安定的な水準を維持し、全部門を下支え。  
さらに、10月から11月にかけて気温の急落が季節商品の需要を大幅に喚起。  
クリスマスなどの季節性のパーティーグッズを中心とした採算性の良い商品ミックスが、お客さま支持率をさらに高める。

## ▶ 連結売上総利益：392億円（同6.0%増） ▶ 連結販管費287億円（同4.4%増）

お客さま数獲得に繋がる価格訴求型商品とプライベートブランド商品を中心とした企画提案型商品をバランス良く配置。  
また、低気温を追い風に季節商品の展開もスムーズに対応できたことから利益率は0.2pt改善。一方で「コストコントロール」を効かせて販管費率は0.2pt改善。

## ▶ これらのことから、営業利益104億円（10.5%増）、経常利益107億円（18.4%増）、純利益67億円（27.5%増）といずれも当期間の最高益を更新。

### 気温の推移



### 休日数比較（土日祝）

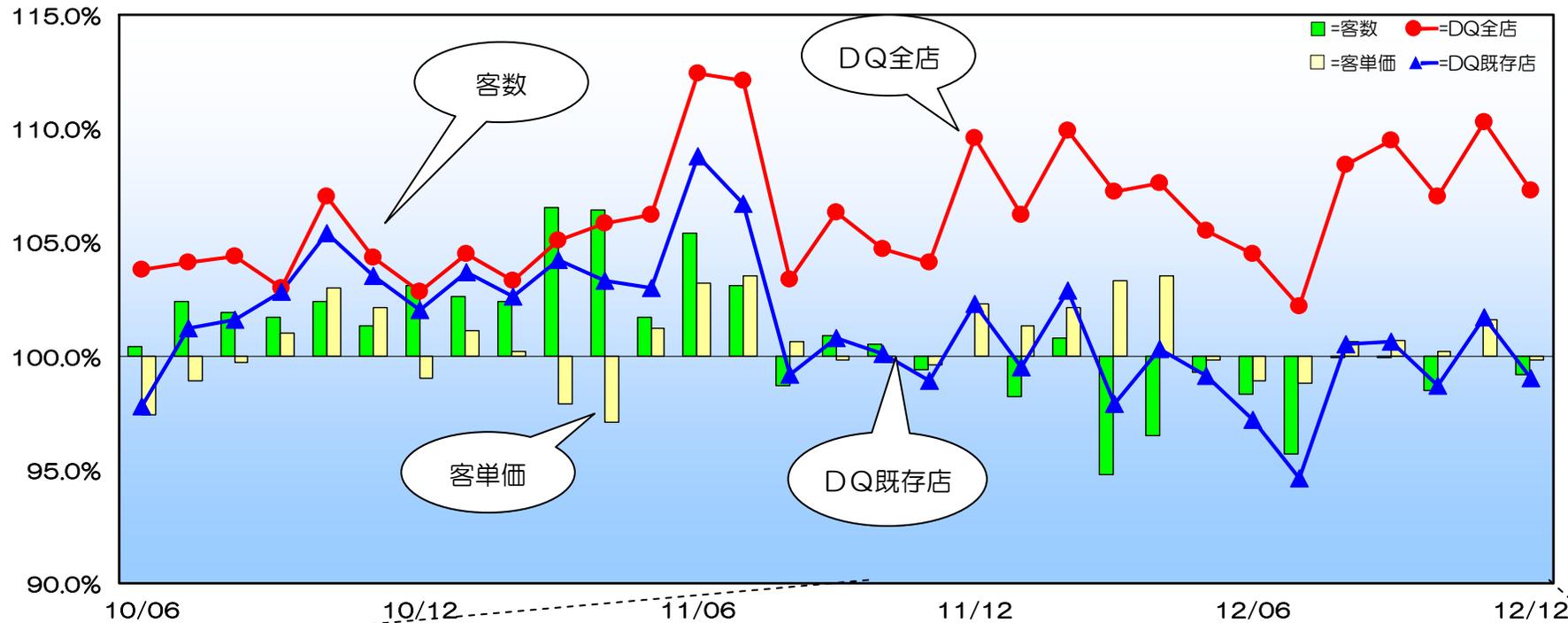
2012年10月：9日間（2日減）      2011年10月：11日間  
2012年11月：9日間（1日減）      2011年11月：10日間  
2012年12月： ↓      =官公庁など賞与支給日      =給与支給日

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	
本年	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
前年	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
12月																
本年	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
本年	日	月	火	水	木	金	土	日	祝日	火	水	木	金	土	日	月
前年	金	土	日	月	火	水	木	祝日	土	日	月	火	水	木	金	土

賞与支給後～X'masまでの休日数が前年比2日減

給与支給日がX'mas後に...

# 月次販売高の状況 (DQ)



既存店	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	100.1%	98.9%	102.3%	99.5%	102.9%	97.9%	100.3%	99.1%	97.2%	94.6%	100.5%	100.6%	98.7%	101.7%	99.0%
・客数	100.5%	99.4%	100.0%	98.2%	100.8%	94.8%	96.5%	99.3%	98.3%	95.7%	99.9%	99.9%	98.5%	100.0%	99.2%
・客単価	99.7%	99.6%	102.3%	101.3%	102.1%	103.3%	103.5%	99.8%	98.9%	98.8%	100.6%	100.7%	100.2%	101.6%	99.8%
対象店舗数	160店	161店	163店	163店	162店	156店	158店	164店	164店	165店	167店	167店	167店	169店	172店

地デジ特需の反動減、曜日周りの不運及び天候不順などのマイナス影響をカバーしきれずに  
DQ既存店伸長率は1.0%減（客数1.2%減、客単価0.2%増）となるが、  
セールスマックスを意識した販売促進策で売上総利益は0.4%増！

# 当期出店状況

## フォーマット別店舗数

	2011年 6月期	2012年 6月期	2013年6月期	
			1Q	2Q
ドン・キホーテ※1	150	157	157	161
ピカソ※2	10	14	14	14
M E G A※3	43	49	52	54
海外(ハワイ)	3	3	3	3
ドイト	16	14	13	13
長崎屋	6	5	4	4

## 法人別店舗数

ドン・キホーテ	169	185	188	194
長崎屋	40	40	39	39
ドイト	16	14	13	13
D Q U S A	3	3	3	3
合計	228	242	243	249

※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれております。

※2. 「ピカソ」には、「ピカソ」及び「エッセンス」が含まれております。

※3. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。

※4. 上記の他に、2店舗(長崎屋・ドイト)を閉鎖しております。



11月 MEGA 宜野湾店



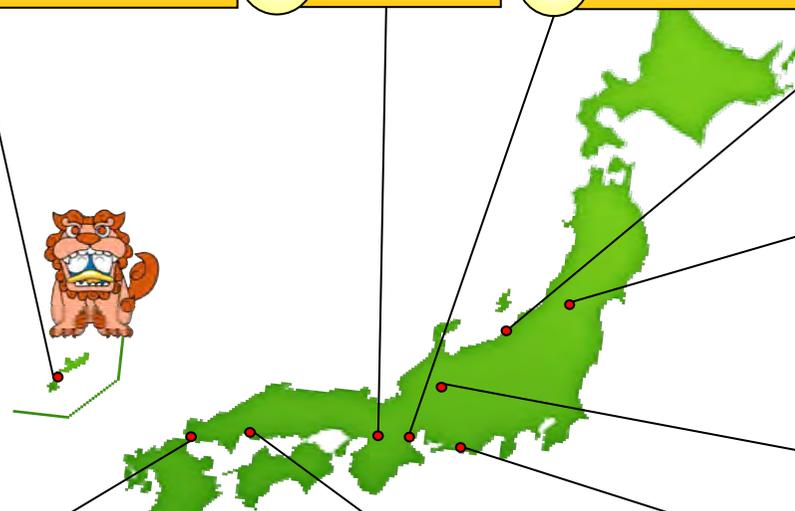
11月 守口大日店



7月 MEGA 四日市店



12月 MEGA 上越インター店



12月 山形嶋南店



12月 下関長府店



10月 広島八丁堀店



9月 MEGA 袋井店



8月 MEGA 岐阜瑞穂店

# 当期ハイライト

既存店における堅実な成長を基に、商圈内シェアと収益力を拡大！！

当2Qの新規出店はDQ4店、New MEGA5店の計9店（うちソリューション出店2店）。

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
D Q	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">四日市</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">岐阜瑞穂</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">袋井</div> </div>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">広島 八丁堀</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">宜野湾</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">山形嶋南</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">守口大日</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">下関長府</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">上越 インター</div> </div>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">西神戸</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">飯塚</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">紀の川</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;">高岡</div> </div>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 30%;"></div> </div>
長崎屋				
ドイト				

- コミットメント  
ライン設定
- 社債発行登録  
(500億円)
- 沖縄県  
初出店
- 山形県  
初出店
- 無担保社債発行  
(150億円)

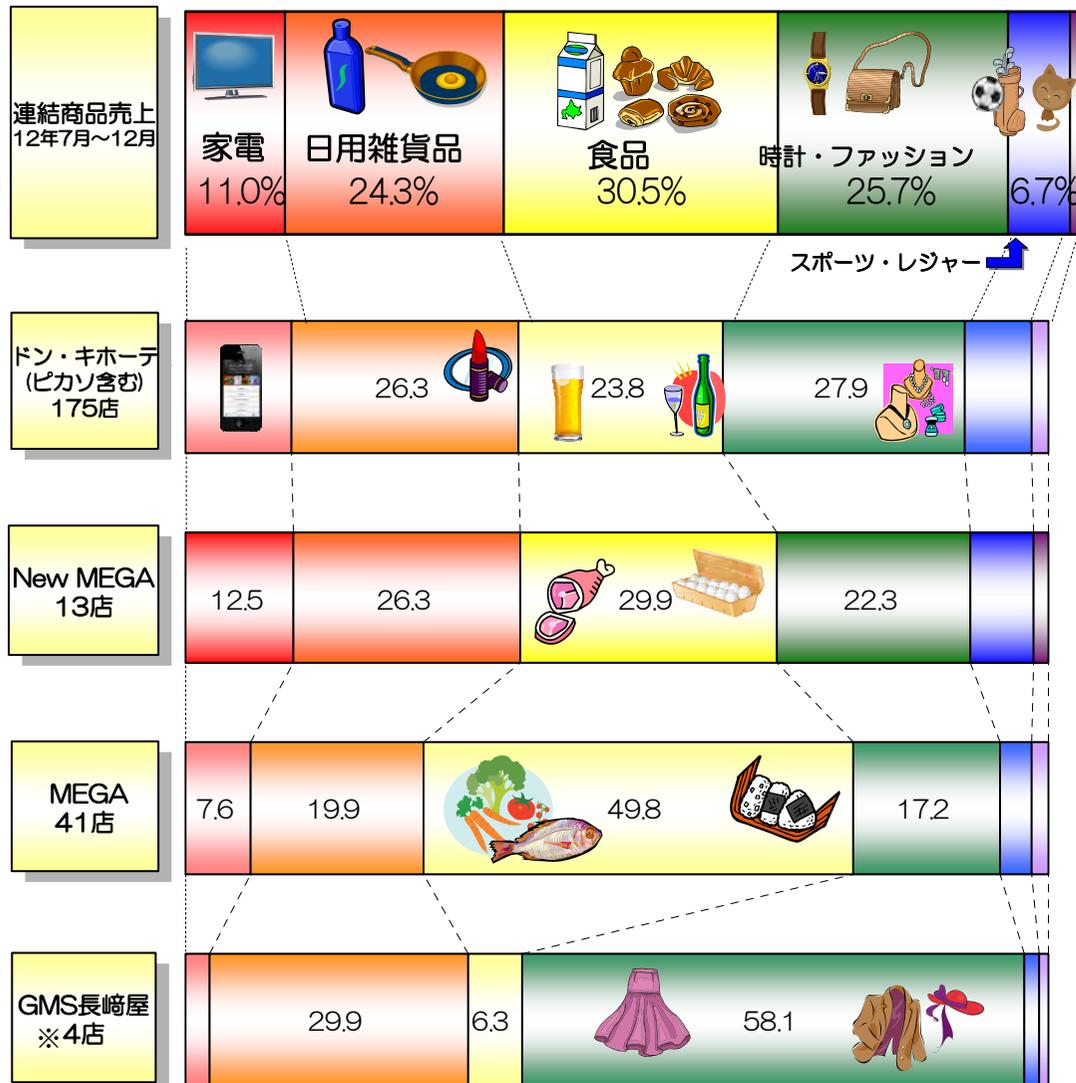
■ = ドンキ      ■ = MEGA

# 業態 Information : 商品構成

## 業態別商品構成

その他

## New MEGA 店舗マップ



※GMS長崎屋は、全社ベースの販売シェア=0.52%、(株)長崎屋内シェア=2.17%の規模

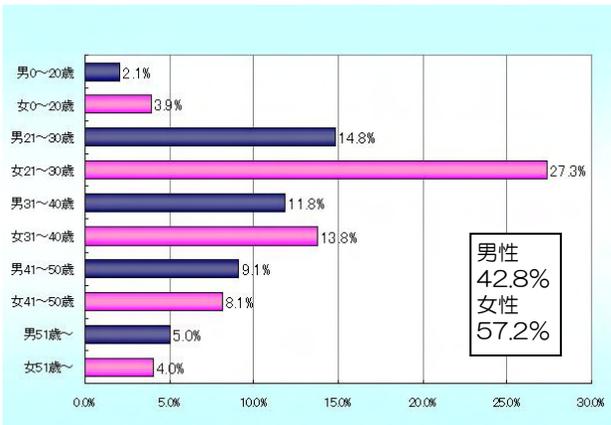


2011年4月神戸本店を皮切りにNew MEGAは13店舗体制に！

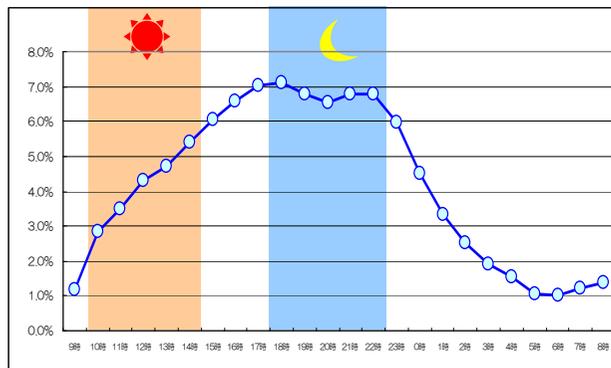
# 業態 Information : 顧客分析

## ドン・キホーテ

男女別年代別構成比



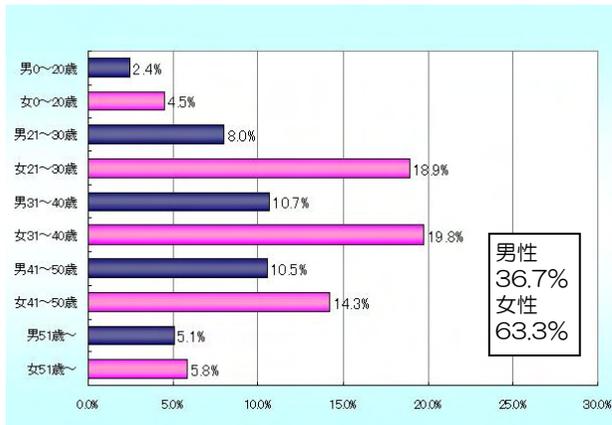
時間帯別客数推移



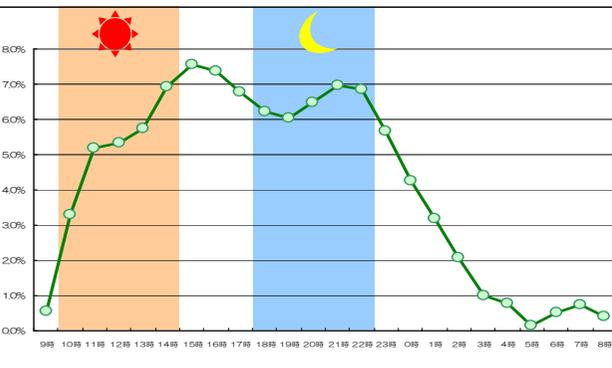
20代女性が圧倒的で、  
40代以上は男性が女性を逆転

## New MEGA

男女別年代別構成比



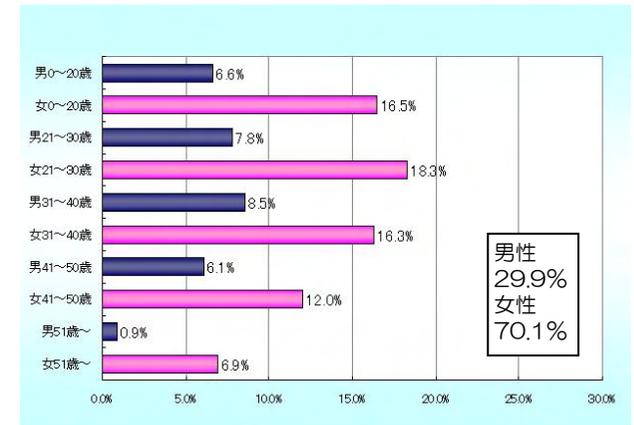
時間帯別客数推移



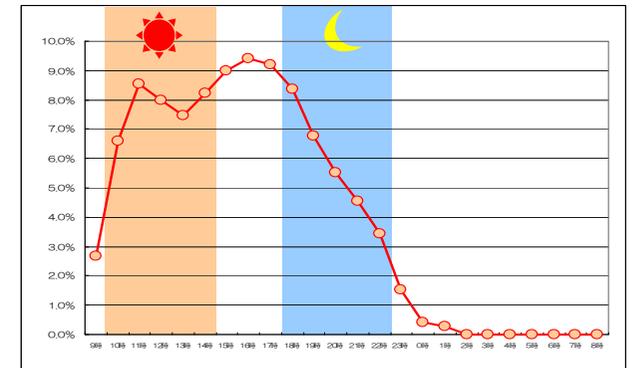
20~40代の女性が中核を構成し、  
「ファミリー」層も獲得

## MEGA

男女別年代別構成比



時間帯別客数推移



幅広い年代層に支持されて、  
女性比率が70%

(注) データ出典：男女別年代別=モバイル会員データ、時間帯別客数=POSデータ (2012年12月31日時点)

# ヒット商品ランキング

## 2012年7月~12月 ヒット商品番付表

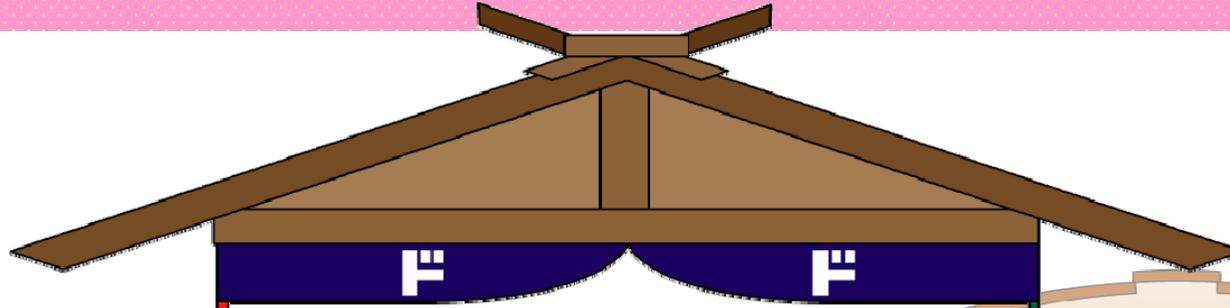
東・情熱価格		西・全取扱商品
ラバー歯ブラシ (ふつら)	横綱	クレハ NEWクレラップ レギュラー30cm×50m
単3形 アルカリ乾電池 4個パック	大関	マウントレニア カフェラッテカップ 240ml
極氷	関脇	メイトー ひっきり特濃牛乳4.4 1ℓ
MEGAVOLT アルカリ乾電池 単3形 4個パック	心結	雪印 コーヒー 1ℓ
単4形アルカリ乾電池 4個パック	前頭	たまごLサイズ 10個入り
ラバー歯ブラシ (かため)	同	ネピア ネピネピティッシュ 160組 5個パック
炭酸水 1.5ℓ	同	カルビー じゃがりこサラダ
アツアツごはん 3個パック	同	キリン メッツ コーラ 480ml
紙軸・黒綿棒	同	コカ・コーラ 1.5ℓ
納豆 超極小粒	同	日本コカ・コーラ 綾鷹 (緑茶) 2ℓ



# 情熱価格 Information

満員御礼

満員御礼



ヘアアイロンミニ



製氷機能付き 46L 1ドア冷蔵庫



ストレートヘアアイロン



IHクッキングボード



超音波式センサーコントロール加湿器



ヒゲスタイラー



2.1chスピーカーシステム



ワンセグチューナー内蔵 高精細7型ポータブルDVDプレイヤー



アルカリ乾電池「メガボルト」

## 家電場所



マジカルハンガー10個セット



ビセイローラー (美容器具)



折りたたみ用ハンガー 50ピンチ



デジタルキッチンスケール



2WAY着るブランケット

## 雑貨場所



トイレトペーパー「アリス」 シングル&ダブル



紙軸黒面棒



おっきな芳香剤



食器用洗剤オレンジ



用途で使い分ける スポンジ3個セット



ボディケアミルク



ほかほかウォーマー 貼らないタイプ

## 消耗品場所



炊きたてご飯



妙高なめ茸 極旨ビーフジャーキー



緑豆はるさめ



糖類ゼロレモン缶チューハイ



まるやかほん酢



からだ思いの十六穀米



殻付き焼き甘栗



プチマドレーヌ



さらっとおいしい 抹茶入り緑茶



キシリメイト ライムミント



えび大判焼

## 食品場所

# 中長期の施策と個別業績予想

## —中長期重点戦略—

1. 30期連続増収増益を目指す
2. PB強化による利益率アップ
3. ソリューション出店という新たな店舗開発

## —2013年6月期施策—

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

### 1. グループ：

事業効率のさらなる改善を進め、お客さま支持率の高い店舗運営を促進

### 2. 営業方針：

業態創造と変化対応  
交差主義比率の改善を進めながら商圈内競争力を強化  
お客さま層拡大に対応した商品編集とサービスレベルの向上

### 3. 商品戦略：

消費マインドの変化に適應する商品ポートフォリオの改廃と進化  
生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進  
PB・OEM商品ラインナップの拡充  
(新機能・こだわり商品など)

### 4. 店舗戦略：

設備投資額（予備費含み）300億円  
新規出店15店+α、出店地域の拡大、MEGA店の収益力アップ  
DQ既存店の予想：下半期=0.0%、通期=0.5%減

### 5. 財務戦略：

資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善  
デット調達を有効活用。エクイティファイナンスの予定なし  
年間配当金予想=31円00銭、（中間配当実績：10円00銭）

## <DQ個別業績予想>

2Q業績の進捗状況から、12年8月17日に公表した業績予想を修正します。

（単位：百万円）

	修正予想			前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	388,800	100.0%	105.6%	368,109	100.0%
営業利益	22,000	5.7%	104.0%	21,144	5.7%
経常利益	22,400	5.8%	107.4%	20,861	5.7%
当期純利益	13,000	3.3%	124.0%	10,484	2.8%
1株当り純利益	168.37円	—	123.8%	136.02円	—
1株当り配当	31.00円	—	100.0%	31.00円	—

# 通期の連結業績予想

(単位：百万円)

	通期修正予想			当初予想		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	562,000	100.0%	104.0%	560,000	100.0%	540,255	100.0%
売上総利益	147,500	26.2%	105.7%	145,500	26.0%	139,543	25.8%
販管費	116,500	20.7%	105.7%	115,000	20.5%	110,223	20.4%
営業利益	31,000	5.5%	105.7%	30,500	5.4%	29,320	5.4%
経常利益	31,000	5.5%	105.9%	30,300	5.4%	29,283	5.4%
当期純利益	20,100	3.6%	101.3%	20,000	3.6%	19,845	3.7%
1株当たり純利益	260.33円	—	101.1%	259.29円	—	257.47円	—
設備投資額	30,000	—	127.3%	30,000	—	23,563	—
減価償却費	9,800	1.8%	102.4%	9,800	1.8%	9,566	1.8%

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、  
引き続き増収増益決算を目指します。

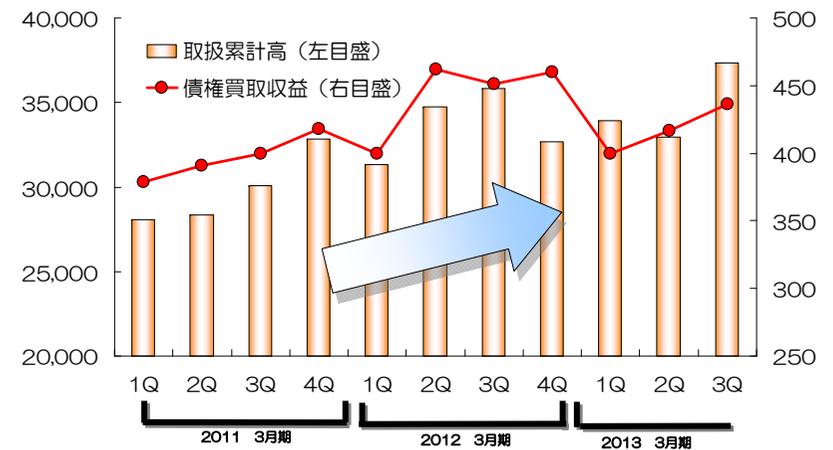
# アクリーティブ3Q決算業績概況

(単位：百万円)

【PL概況】	当3Q (12年 4月1日~12月31日)			前3Q (11年 4月1日~12月31日)	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
取扱累計高	104,219	—	102.3%	101,894	—
営業収益	2,091	100.0%	107.8%	1,940	100.0%
債権買取収益	1,253	59.9%	95.5%	1,312	67.7%
業務受託収益	699	33.5%	111.6%	627	32.3%
その他収益	139	6.6%	31734.1%	0	0.0%
金融費用	227	10.9%	95.7%	238	12.2%
販売管理費	1,220	58.3%	118.8%	1,027	52.9%
営業利益	643	30.8%	95.3%	675	34.8%
経常利益	729	34.9%	104.0%	702	36.2%
当期純利益	620	29.7%	96.0%	646	33.3%

(単位：百万円)

【BS概況】	当3Q末		前期末
	金額	増減	金額
総資産	18,457	1,157	17,300
負債	15,822	538	15,284
純資産	2,634	619	2,016



当3Qにシローン組成費用を前倒し計上、  
通期予算達成にはまったく問題なし。  
収益状況、バランスシートともますます改善！

# 本日はありがとうございました。



## IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドン・キホーテ IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

## IRカレンダー

第33期（2013年6月期）第3四半期決算発表（予定）

決算発表日：2013年5月7日（火）

説明会会場：野村コンファレンスプラザ日本橋（東京都中央区日本橋室町2丁目4番3号 日本橋室町野村ビル6F）

## 将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

株式会社  
ドン.キホーテ  
Don Quijote Co.,Ltd.